

日本人が中国に行きたくない理由

● 放 眼 日 中



コラムニスト・アジアソウオッチャー
須賀 努

すが・つとむ 東京外語大中国語科卒。金融機関で上海留学、台湾2年、香港通算9年、北京同5年の駐在を経験。現在は中国を中心に東南アジアを広くカバーし、コラムの執筆活動に取り組む。

先日、中国のある雑誌の編集者とやり取りしていた所、「中国人は大挙して日本を訪問しているのに、なぜ日本人観光客は中国に来ないのかについて、見解を書いてほしい」と言われた。そんな事は簡単だろうと、気安く引き受けたのだが…。

2年半前に起きた反日暴動、いまだに「中国に行けば、殴られるかもしれない」と真顔で言う知り合いもいるぐらいだから、そんな事、いちいち記事にもならないほど答えは簡単だと思っていた。

「二度事件が起こると、一般の日本人はその国に3年は行かない」と、ある旅行会社の海外旅行担当者は語る。過去にも、ミャンマーで日本人ジャーナリストが殺された事件では3年以上も観光客が途絶え、現地の旅行会社が潰れたり、ガイドが失業したりした。今回の中国でも既に同

じことが起きている。

加えて、前が見えないほどの深刻な大気汚染、いまだに不安な食の安全など、いくつもの理由が思い浮かぶ。中国駐在員でも、家族を日本に帰して単身になるケースが増えており、北京や上海の日本人学校の生徒も減少しているし、先生のなかで上海への赴任辞退者が続出したのも記憶に残っている（まあ、中国でも、子供により良い教育を受けさせるためという理由で海外脱出が相次いでいるから、これは日本人だけの問題ではない）。

日本人の根底に流れているもの、それは中国に対する「言いようのない恐れ」ではないかと思うことがある。「隣国がどんな力をつけてきたという目に見えない恐怖」ではないだろうか。毎年出される中国崩壊論など、「嫌中本」が売れ続ける理

由は、そこにあるのだろう。少しでも相手の悪いところを探してあげつらい、留飲を下げる。それは日本が弱ってきていることを示している、と言えるかもしれない。

そんなこんなを中国の編集者に送ったところ、「あなた自身は中国に来たいのか？」と聞かれたので、「私も行きたくない」と答えた。「日本の本音を知りたいんだ」というので、「理由はGoogleがシャツトダウンされたことが一番」と伝えた。長年中国に関わってきた者として、最近の中国から感じるのは、「チャイニーズ・スタンダードを受け入れる者以外は歓迎しない」というメッセージであり、「昔はいいことも悪いこともあったが、何となく憎めない中国だったのに」という猛烈な反発がある。

「本音が聞きたい」というので率

直な意見を書き連ねたつもりだったが、数日して「あなたの正直な指摘は十分に理解できるが、公に掲載するにはバランスに十分考慮する必要がある」というメッセージが届き、あえなく原稿はボツになってしまった。2年前にこの編集者と話した時には「うちの雑誌は大抵のことは記事にできる」と胸を張っていたので、その変貌ぶりには目を見張った。今や中国の雑誌にも受難の時代が来ているようだ。

「中国に行きたくない理由」、それは自分の正直な意見が全く受け入れられなくなったことにあるのかもしれない。そういえば、「中国と一衣帯水の隣国」でも同じようなことが起こっていると、筆者が拠点とするバンコクに伝わってくるが、さて、どうなのだろうか。